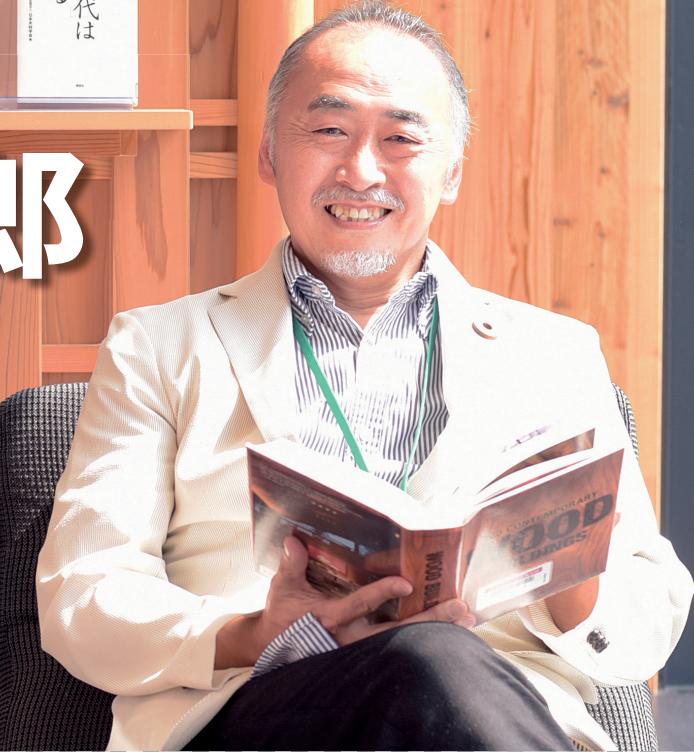




杉浦 俊太郎

Sugiura Shuntaro



各地域ごとに
「図書館そだて会議」を開催



杉浦俊太郎さん

真庭市立中央図書館長。
神奈川県鎌倉市生まれ。
早稲田大学政治経済学部を卒業後、日本放送協会に入局、
2012年からは岡山放送局長を務め、2014年に退職。
2020年4月に中央図書館長就任。

地域の皆さんのが役に立つことができる図書館を、地域の皆さんとつくつていきたい。密を避けながらも、地元の人たちと親密に、地に足が着いたつながりを作つていきたい。また、市内で頑張っている人たちを発掘して、伝えていくということも大事です。時代の要請に応え、コロナ時代の新しい図書館モデルをつくろうと考えています。図書館は、本を借りるだけではなく、人と人がつながる場所なのです」と杉浦さんは静かに、力強く語ります。

本棚づくりはまちづくり

今年度から真庭市立中央図書館長になつた杉浦俊太郎さんは、NHKで仕事をしていた頃から真庭のファンだつたと話します。「取材で真庭に来て、好きになりました。9つの町村が合併して、バラバラなのかなと思ったら、そうじゃなく連携して活動が行われている。個人的には連邦国家みたいだな、と感じています。さらに、北から南まで、四季を通じていろいろなものがある。宝の山です」と、真庭のことを話す杉浦さんは本当に楽しそうです。

杉浦さんに図書館の役割について尋ねると、「地域の文化や伝統の再発見、再定義、再評価も図書

真

M A N I W A B I T O

庭

人

館の仕事です。伝統と言つても芸能だけでなく、例えば、日本酒や珪藻土など経済や産業面も立派なその土地の伝統です。それらは地元の人たちにとっては当たり前のことかもしれませんのが、すこくいいものなのです。そういうことを考えながら、地域の図書館の本棚をどう構築するか、これはまちづくりだと考えています。7館それぞれ、そこにしかない図書館を作つていきたいと考えています」と、真剣な表情で答えてくれました。

人と人がつながる図書館

杉浦さんは地域の人たちと話をするため、図書館そだて会議を各図書館ごとに企画しました。「地

まにわびと
17
2020